

制度による虐待

所長：新妻 登



吉田光延 画

発行 社会福祉法人いわき福音協会
はまなす 荘
いわき市平中平窪字二堂田2
〒970-8002 ☎(0246) 8711
編集責任 はまなす荘新聞編集委員会

昨年十月、「障害者虐待防止法」が施行された。その中で私達サービス提供事業者職員は、当然の事ながら「虐待をしてはいけない」事が明記された。裏返して言えば、障がいのある人の人権を守ったサービス提供を行う事であり、良かれと思う事でも、本人の意思を無視して行うことはできない。

私達はサービス提供をする時、職員が足りないから、忙しいから、嫌な事があったり、ライバルしていたから等、つい乱暴な言動になりがちだが、それは言い訳にならない。職員同士互いに協力し合い、カバーし合いながら、より良いサービス提供ができるよう日々努めている。

そんな中で、「これは虐待ではない？」と思う事がある。はまなす荘は、ご存知のように、「施設入所支援事業」と「生活介護事業」を行っている。厚生労働省が今年四月に施行した障害者総合支援法は、ノーマライゼーションを基本理念とした共生社会の実現を目指している。それは、障がいのある人に特別な恩典を与える事ではなく、当たり前普通の生活を保障する事である。その観点から入所施設の現状を見てみると、おかしな事に気付く。

第一に、普通の人達が施設の中で行われているような「昼間に入浴」をしているのであろうか。現実には、はまなす荘も日中の生活介護事業の中で『入浴介助』と称して実施しており、その後夕食という生活支援をしている。なぜならば、次に述べるおかしな点と関連しているからである。

第二は、入所施設が行っている『施設入所支援事業』つまり、夕方から翌朝に掛ける生活支援についてである。法によれば、上記の事業の職員配置は、定員六十人以下の施設は、職員一名以上となっている。今、入所施設を利用できる人は、障がいの重い人に限定されている。障がいの重い人六十人を夜間一名以上（という事は一人でも良い事である）という職員配置で、支援ができると考えているのだろうか。食事、入浴、排泄等の介助だけでなく、一人ひとりの生活への支援、ましてや男性女性が共に利用している施設で、異性に対する支援をどうしようというのだろうか。障がいのある人は、夜の生活時間はそれぞれの楽しみがあったりしている。寝ているだけの時間ではないのである。

障がいがあっても当たり前前の生活を保障し支援する私達から見れば、それは、『制度による虐待』そのものである。私達は、厚生労働省はもちろん、地方主権の時代、それぞれの自治体が、配置基準等を見直し、人権が保障された支援ができるような制度改革に取り組む事を願っている。



はまなす荘の桜

南限の花

寒暖の差が厳しい日が続く中、駐車場の桜の花は少しずつ咲き始めてきました。

先日の当番勤務時に利用者さんとテレビを見ていると交通事故のニュースが流れ、「先生、交通事故のニュース毎日やってるんだ」と話し掛けられました。確かに、いわき市内も避難者や復興作業員の方で車や人の数が増え、以前よりも交通事故を見かける事が多く、私も気を引き締めて運転しています。

東日本大震災のあの日から二年が過ぎ、道路などは綺麗に直されていますが、避難中の人や仮設で生活している人と、まだまだ復興できていないのが現実です。早い復興を祈っています。

最後に平成二十五年度も利用者さんとよりよい一年を送れるように頑張ってくださいと思います。



一年を振り返って

男子棟

平成二十四年度は、震災から二年が経ち、はまなす荘の建て替えからも二年目になります。劇的な変化のあった昨年度に比べるとだいぶ落ち着いた様子、穏やかな生活を送れるようになってきました。

その中で、利用者の方が『安心して、楽しみ・生きがい』を持ち暮らせるよう多面的に支援してきました。特に毎日の入浴や運動時間の増加など健康面・衛生面への配慮、またボランティアの方のご協力のもと外出支援など余暇の充実にも積極的に取り組んでまいりました。利用者の方の高齢化・障がいの重度化に伴い身体機能の維持・健康への配慮が大切な視点になってきております。また、利用者の熊田正明さんが十八年間入所されていましたが、病院にて療養生活を送るため、平成二十五年三月三十一日で退所となりました。

女子棟

平成二十四年度は、建て替えから二年が経ちました。個室対応となつていますが、まだまだ一人でテレビを見たり音楽を聴いたりする利用者さんが少なく、デイルームに集まりお喋りを楽しむ姿が多く見られます。女子棟内では高齢化に伴い、身体機能低下が少しずつ見られるようになりました。車椅子の方が三名・歩行器の方が一名と少しずつ増えています。今後、医師・看護師との連携を密にし、健康管理と維持に努めていきたいと思ひます。その為には支援員同士の情報交換を密にし、利用者一人ひとりの様子を把握し、小さい変化を見逃す事なく共に支えあう毎日を目指していききたいと思ひます。

平成二十四年度は、建て替えから二年が経ちました。個室対応となつていますが、まだまだ一人でテレビを見たり音楽を聴いたりする利用者さんが少なく、デイルームに集まりお喋りを楽しむ姿が多く見られます。女子棟内では高齢化に伴い、身体機能低下が少しずつ見られるようになりました。車椅子の方が三名・歩行器の方が一名と少しずつ増えています。今後、医師・看護師との連携を密にし、健康管理と維持に努めていきたいと思ひます。その為には支援員同士の情報交換を密にし、利用者一人ひとりの様子を把握し、小さい変化を見逃す事なく共に支えあう毎日を目指していききたいと思ひます。

厨房

献立を立てる時には、栄養のバランスはもちろん、利用者様の嗜好、季節感、色彩、予算、調理工程等を考えて立てるのですが、長年、この作業をしていてもトレーに並べられた完成品を見て、思わず隠れたくなることもしばしばです。

それでも利用者様からの「おいしかったよ」の声に支えられ、今年も一年、厨房の方の協力により、安全な給食を提供することができました。また、二月には調理設備を持たないはまなす荘にとって待望の、スチームコンベクションオーブンが設置され、災害時や緊急時の食事作りについては一安心です。

医務

この一年を振り返り、はまなす荘に入職しては約十年目に入り、最も早く過ぎてしまった一年だったように思ひます。

日々の業務に追われながらも、季節ごとに行う楽しい行事やグループ旅行など、毎年思い出が増えていく中、利用者さんと共に老いていくと思ひていたら、みんなは変わらずパワフルで、自分だけが老け込んでいく現実をにげていきます。人生半分以上過ぎた今、口から食事を食べ、自分の足で歩くこんな普通の事でも、普通にできる生活を、利用者さんと一緒に一日でも長く過ごしていけるよう、次年度も健康管理の面でいろいろ取り組んでいきたいと思ひます。

ピープルワン招待行事



二月二十五日(月)、ボランティアグループのピープルワンによる招待行事があり、平沼ノ内にあるビストロ縁へ出掛けてきました。

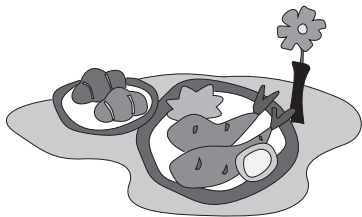
利用者さん十三名、職員二名、ピープルワン六名の合計二十一名の参加となりました。

ビストロ縁では、フルコースを慣れないナイフとフォークを緊張しながらも上手に使いお腹いっぱい食べ、ピープルワンの方々と歓談し、楽しいひと時を過ごす事ができました。

ピープルワンの皆様方、どうもありがとうございました。

した。

参加した利用者さんからは「美味しかった」、「お腹いっぱい食べた」、「楽しかった」との感想が聞かれ、ピープルワンの方々からも「良かった」との言葉が聞かれました。



パート紹介

- ①名前
- ②趣味・特技
- ③抱負

平成二十四年十一月より、男子棟の日中の支援を対応して頂く為に、パートさんが入るようになりました。

卒業後の勉強の為にという意味も含め、パートさんは現在、大学生の方をお願いしています。

皆さん、利用者さんに対して優しく楽しく接してくれ、一生懸命仕事をしてきています。

また、現在パートさんの人数が三人という事で、毎日業務に入れていないので、男性パートさん(学生限定)の募集もしておりますので、よろしくお願ひします。



①岡田 拓也

②料理・お菓子作り

③昨年十一月下旬からお世話になっております。将来はMSWとして働こうと考えています。利用者さんと交流しながら福祉の現場を経験していきます。この経験を生かしていきますながら社会福祉士の取得を



①小川 純也

②読書・ツーリング・飼犬の世話

③昨年の十一月末よりお世話になっております。大学卒業後



①菅野 誠

②読書、映画鑑賞

③昨年十二月からはまなす荘で勤務しています。大学では社会福祉士になる為福祉について学んでいます。学問だけでなく実践の場を経験してみたいと思い、働かせて頂いております。抱負としては、支援の仕方や利用者さんとのコミュニケーションの仕方等をしっかりと学んで、自分の今後に役立てたいなと思っています。

は福祉の仕事に就こうと考えており、はまなす荘ではとても多くのことを学べています。まだまだ未熟な点があるかと思いますが、利用者の方々に応えられるように精一杯努力していきたいと思ます。どうぞ宜しくお願いします。

ボランティア反省会開催

三月二十三日、ボランティア活動反省会が行われ、二十四年度の活動報告と来年度に向けての意見交換を行いました。



反省会とは名ばかりで、一年間どのようなボランティア活動を実施したか報告させて頂き、その活動を感謝する会と考えておられます。

また、ボランティア仲間や、ボランティアと職員間とで話し合



い交流する事で、利用者にとってより良い支援活動ができる機会になればと思っております。
ボランティア活動は、毎日の日課からでは得る事のできない経験を得る事ができ、マンネリ化しがちな施設生活の息抜きや刺激にもなり、生活の質の向上に大いに貢献して頂いております。
今後とも、ご協力ご支援よろしくお願い致します。

功勞賞授与式

三月二十九日に平成二十四年度功勞賞授与式を実施しました。今回は作業場四ヶ所・男子棟・女子棟・所長特別賞の七名が選ばれました。以下は表彰を受けられた方々です。



- さき織り班 → 氏家 富子さん
- 紙ちぎり班 → 鈴木 麻里さん
- 環境整備班 → 相良美奈子さん
- 洗濯班 → 阿部 恵子さん
- 男子棟 → 佐藤 勤さん
- 女子棟 → 岩崎 愛さん
- 所長特別賞 → 紺野 利男さん

総合避難訓練を実施



二月八日に総合避難訓練を実施しました。避難訓練は毎月行っているのですが、避難することはスムーズだったのですが、今回は現場確認(初期消火)に時間を掛けたことで、一部の利用者の方が避難指示が出る前に避難してしまう状況がありました。避難後に、改めて指示(火元や避難場所)を良く聞くよう話をしました

が、自分自身で安全に避難できることが身に付いているのかとも考えてしまいます。
今回は二次避難で、みはま体育館まで移動しました。そこでは、消火器の取り扱いや非常食体験(カレー)、防災ビデオの鑑賞を行いました。

非常食も便利な物が増えており、火や水がなくてもアツアツのカレーが食べられるようになっていました。味もなかなかのものでした。備えは必要ですが、食えることがないことを願っています。防災ビデオは消防署から借用し、身

近な製品事故による火災などを見て、気を付けなければならぬこと等を学びました。今後とも訓練を通し、防災意識を高めていきたいです。





保護者との一泊研修

『そよ風ネットいわき』の下の

去る三月二日〜三日、恒例となった保護者との一泊研修がかんぽの宿にて行われました。今回は成年後見制度についての講演という事で、はまなす荘の卒業生もお世話になっている、『そよ風ネットいわき』の園氏に制度の成り立ちや現在のそよ風ネットいわきの仕事をDVDを見ながら、分かり易く話をして頂きました。その後、今回成年後見制度を申請した保護者の方からも、実際に申請した時の感想等の話があったので、参考になったのではないかと思います。その後の懇親会も、カラオケや保護者と職員の話で盛り上がり、連帯感も感じられる楽しいものとなりました。



節分



二月五日(火)、はまなす荘食堂にて節分の豆まきが行われました。年男の奥津敦彦さん、青木清さん、年女の岩崎愛さん、本郷全子さんが利用者代表として、鬼に向かって豆まきを行いました。いわき短期大学からの実

習生の方が作ってくれた赤鬼と青鬼のお面と胴体を、職員と実習生が身に付け、その二対めがけて「鬼は外!」と元気よく豆をぶつけ、泣き虫鬼・弱虫鬼・意地悪鬼等、心に住みついて退治したい悪い鬼を追い払ってくれました。また、今年一年健康で過ごす事ができますようにと、「福は内!」と元気な声で沢山の福を呼



び、その後はおいしい甘酒と甘納豆を頂きました。さて、来年はどんな悪い鬼を退治してくれるのでしょうか・・・。

面会日



二月十九日(火)に保護者の方への近況報告及び荘内の環境美化を実施し、保護者・職員の親睦を図る目的で面会日を実施されました。

今回は、二十名の保護者の方にご参加頂き、荘内の清掃を一時間ほど行い、その後、今年度の各種行事や余暇活動(ボランティア)の方の付き添

平成25年度事業計画

今年度、はまなす荘としては、支援面では、①利用者の体力維持の為のリハビリ・運動の充実、②精神的な満足の為には、ボランティアと日中活動の充実を両々として活動していく必要があると思えます。

現在のはまなす荘のボランティア活動は充実しています

いによる外出支援)等のビデオ・写真鑑賞会が開催されました。鑑賞会では、職員のナレーションのもと、四月の『花見』から始まりスポーツを楽しんだ『ふれあいレクリエーション』や歌に踊りに暑さを忘れて盛り上がった『みはま福祉祭り』、そしてたくさんのお世話になっている方達と愉しんだ『クリスマス会』等、笑顔溢れる数々の写真を保護者・職員一緒に愉しみ、親睦を図る事ができました。

が、年齢的に高くなってきているので、次の世代につなぐ努力をしなければならぬ時期かと思えます。

また、設備面では、かねてから職員から希望のあった(トイレの床を洗い流せるようにする)改修工事や車椅子対応の福祉車輜(一人乗り用)を予定しており、利用者がより充実した生活が送れるように支援していきたいと思えます。

インタビュー

内部研修



二月二十一日、野の花ホーム職員二名の方を講師とし内部研修を行いました。

荘においては、利用者さんの高齢化・重度化に伴い身体の機能低下が目立ち始め、職員の介護技術の習得・向上が必修で、移乗・オムツ交換を中心に実際にやって頂き、職員も見習い疑問に答える形で行いました。

野の花ホームでは夜間男女各二名体制で行っており、職員一人での対応に難のある利用者さんは、なるべく職員が二名になる時間に合わせ実施した方が良いとの助言を受けました。



Newface Introduction 新入職員紹介

	<p>①尾形 長子 (おがたながこ) ②次長 ③テレビ鑑賞 ④野の花ホームから異動して参りました。初めての施設なので、戸惑っていますが、皆さんに親切に教えてもらっています。頑張りますので、よろしくお願ひします。</p>
	<p>①高野力哉 (たかのりきや) ②支援員 ③スポーツ(バレー、バスケットボール) ④四月から、はまなす荘で働く事になりました。初めての経験で色々不安や緊張する事もありますが、仕事をする責任と自覚を持ち、頑張りたいと思います。また、利用者の望む生活に少しでも近づける事ができる、「寄り添った支援」をしていきたいです。</p>
	<p>①佐藤真知子 (さとうまちこ) ②支援員 ③ウインドウショッピング ④四月一日よりお世話になっております。皆様から、たくさんのお話を学びたいと思っておりますので、宜しくお願ひ致します。</p>
	<p>①斉藤舞香 (さいとうまいか) ②支援員 ③絵を描く事、音楽鑑賞 ④四月一日から働く事になりました。分からない事がたくさんあるので、皆さんから学び勉強していきたいです。よろしくお願ひします。</p>
	<p>①古川美和 (ふるかわみわ) ②栄養士 ③ダンス、ピアノ、テロレシジョンケーキ作り ④利用者の皆さんに真心で接し、活動のエネルギーになるような献立ができればと思います。また、日々の暮らしの中で利用者の方々の願いに応え、確実に実践できればと思います。が、聖書の信仰に基づいて福祉を目指したいと思ひます。</p>

退職職員

新妻ミヨ栄養士、鈴木亮子支援員が三月三十一日付けで退職されました。

新しい環境でも頑張ってください。

異動職員

庄司恵子次長がふくいんポポロへ、岡部次郎支援員がシャロームへ異動されました。新しい異動先でも頑張ってください。

退所者

熊田正明さんが三月三十一日付けで退所となりました。これからも健康に気を付けて、新しい生活を楽しんで下さい。



入所者紹介

四月一日付けで箱崎俊也さんがはまなす荘入所となりました。仲良く楽しく、はまなす荘

での生活を送ってもらいたいと思います。

お知らせ

昨年の七月二十一日より、産休・育休を取られていた榊井拡子事務。パートが、四月一日より復帰されました。仕事と子育ての両立はとても大変だと思ひますが、これから

寄附

- クレハ労働組合様
- 岩崎 啓子様、中島 勝吉様
- 沼田アツ子様、田島 義夫様
- イトーヨーカ堂様
- 齋 京子様 (順不同)

編集後記

新年度を迎え、また新たに気持ちを入れ替え、仕事に取り組んでいきたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。